

－目黒のサクラ再生実行計画－

# 区立公園サクラ再生実行計画（概要版）

令和5年3月

目黒区



---

## 目次

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| 1. サクラ再生実行計画とは .....           | 1  |
| 2. 現状と問題点 .....                | 1  |
| (1) 概況 .....                   | 1  |
| (2) 桜の健全度(過年度の樹木調査結果の整理) ..... | 2  |
| (3) 各立地の問題点 .....              | 5  |
| 3. 将来像 .....                   | 7  |
| (1) 区立公園サクラ再生実行計画の基本方針 .....   | 7  |
| (2) 将来像 .....                  | 8  |
| (3) 将来像を実現する技術と方法 .....        | 14 |
| 4. 桜の維持管理 .....                | 16 |
| (1) 問題点改善のための措置・対策 .....       | 16 |
| (2) 標準の年間管理 .....              | 18 |
| (3) 住民参加 .....                 | 22 |

---

## 1. サクラ再生実行計画とは

区立公園の桜を将来にわたって引き継ぐため、生育上の問題点を調査し、中長期的な視点から桜景観の将来像、保全策および管理方法を検討し、再生および維持管理の指針となる「区立公園サクラ再生実行計画」を作成する。

73 か所の区立公園のうち、個別にサクラ再生実行計画を作成している駒場野公園および碑文谷公園を除く 71 公園を「区立公園サクラ再生実行計画」の対象とする。

### 区立公園一覧

| 公園名              | 本数 | 公園名             | 本数 | 公園名             | 本数  |
|------------------|----|-----------------|----|-----------------|-----|
| 1.松見坂公園          | 0  | 26.目黒川田道街かど公園   | 0  | 50.本町五丁目西街かど公園  | 0   |
| 3.駒場三丁目もちの木公園    | 0  | 27.田道広場公園       | 6  | 51.本町北公園        | 0   |
| 4.駒場公園           | 38 | 28.目黒区民センター公園   | 6  | 52.向原西街かど公園     | 1   |
| 5.西郷山公園          | 41 | 29.大塚山公園        | 1  | 53.西小山公園        | 1   |
| 6.菅刈公園           | 14 | 30.下二南街かど公園     | 0  | 54.原町タンポポ公園     | 0   |
| 7.菅刈街かど公園        | 0  | 31.大鳥公園         | 2  | 55.洗足北街かど公園     | 0   |
| 8.青葉台四丁目街かど公園    | 0  | 32.不動公園         | 5  | 56.洗足ひだまり公園     | 0   |
| 9.大坂緑地           | 3  | 33.さくらの里街かど公園   | 1  | 57.南一丁目緑地公園     | 2   |
| 10.東山貝塚公園        | 6  | 34.元競馬南泉公園      | 0  | 58.富士見台公園       | 2   |
| 11.東山街かど公園       | 1  | 35.油面公園         | 4  | 59.田向公園         | 7   |
| 12.東山公園          | 43 | 36.中町せせらぎ緑地公園   | 12 | 60.すずめのお宿緑地公園   | 14  |
| 13.目黒天空庭園        | 17 | 37.三角山公園        | 1  | 62.大岡山公園        | 0   |
| 14.氷川さくら公園       | 8  | 38.田切公園         | 10 | 63.境橋街かど公園      | 0   |
| 15.けこぼ坂街かど公園     | 0  | 39.芦毛塚街かど公園     | 8  | 64.自由が丘公園       | 3   |
| 16.中目黒しぜんとなかよし公園 | 1  | 40.五本木ふれあい街かど公園 | 1  | 65.中根公園         | 6   |
| 17.伊勢脇公園         | 12 | 41.五本木二丁目街かど公園  | 0  | 66.中根ねむの木公園     | 0   |
| 18.中目黒駅前町かど公園    | 0  | 42.五本木西みどり街かど公園 | 0  | 67.めぐろ区民キャンパス公園 | 16  |
| 19.中目黒公園         | 17 | 43.祐天寺一丁目ふれあい公園 | 1  | 68.宮前公園         | 21  |
| 20.中目黒南緑地公園      | 1  | 44.中央緑地公園       | 12 | 69.八雲三丁目緑地      | 3   |
| 21.八幡公園          | 1  | 45.こなべ野公園       | 0  | 70.衾町公園         | 10  |
| 22.なべころ坂緑地公園     | 3  | 46.清水池公園        | 13 | 71.やくも街かど公園     | 1   |
| 23.三田丘の上公園       | 20 | 47.月光原公園        | 2  | 72.東根公園         | 17  |
| 24.三田公園          | 7  | 48.本町みなみ街かど公園   | 0  | 73.芳窪街かど公園      | 7   |
| 25.茶屋坂街かど公園      | 0  | 49.金杉原南緑地公園     | 0  |                 |     |
|                  |    |                 |    | 桜のある公園計:48公園    | 429 |

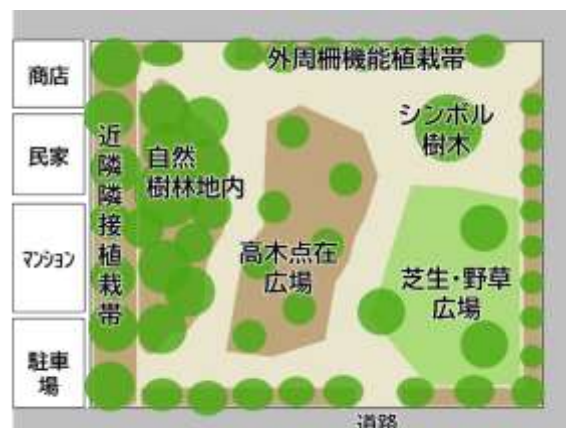
\*桜のある公園はピンクで表示

\*2.駒場野公園と61.碑文谷公園は本計画の対象外(既に計画作成済み)

## 2. 現状と問題点

### (1) 概況

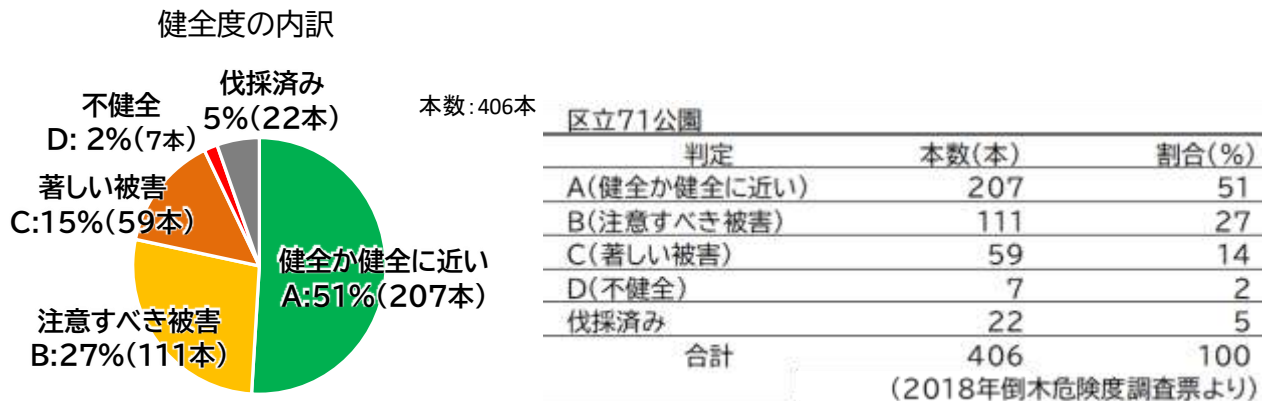
まず 2018 (平成 30) 年度に実施した「倒木危険度調査」の診断結果を集計し、桜の生育状態を整理した。次に桜の生育環境として、の問題点を立地ごとに調査・分析した。特に問題が多かったのは、公園の外周部や高木点在広場であった。隣接樹木との枝葉の競合による日照不足、踏み固め等による土壌の劣化、土壌の養分不足、桜の癒合能力を超えた強剪定などが原因となり、桜の健全度が低下している。これらの改善が課題である。



調査・検討の立地(イメージ)

(2) 桜の健全度（過年度の樹木調査結果の整理）

計画対象の71公園のうち桜のある公園は45か所、計406本であった。健全度は比較的健全なA・B判定の樹木が318本・78%、安全上の注意や対策が特に必要なC・D判定の樹木が66本・16%であった。また台帳にあるが伐採済みの桜が22本・5%であった。倒木リスクがあるため原則として伐採を要するD判定樹木は7本・2%と少なかった。以上から、2018年時点の区立公園の桜は、不健全傾向が極端に進んでおらずおおむね良好に管理されていた。



1) 調査結果の集計

ア) 桜のある公園・立地

- ・71公園中48公園に桜が植わる
- ・確認された桜の総本数は全部で429本
- ・桜が植わっている立地は100か所
- ・桜が植わっている立地のおよそ半数は公園の外周部
  - ②外周柵機能植栽帯および①近隣隣接植栽帯で50か所・198本
- ・根元まで人が立ち入る立地にも全体の四分の一以上の桜が植わっている
  - ④高木点在広場、⑤緑陰植栽広場、⑫芝生・野草広場で23か所・119本

イ) 生育不良の立地

- ・28か所の立地では既に桜の生育状況が不健全傾向
- ・生育不良は②外周柵機能植栽帯(9か所)、①近隣隣接植栽帯(7か所)、④高木点在広場(4か所)の計20か所に集中

ウ) 生育上の問題がある立地

- ・78か所の立地では桜の生育環境として問題あり
- ・生育上の問題は②外周柵機能植栽帯(23か所)、①近隣隣接植栽帯(20か所)、④高木点在広場(14か所)、計57か所に集中

## 2) 生育上の問題点

区立公園で確認された生育上の問題点について調査項目ごとに整理した。






| 問題の種類 | 問題点            | 状況  | 原因・影響   |
|-------|----------------|---|---|
| 日照不足  | 競合被圧           |    | 隣接樹木同士の枝葉が重なり日照が不足する。桜は典型的な陽樹であり日陰の枝は容易に枯れる。  |
|       | 密度・植栽間隔        |    | ソメイヨシノの理想的な植栽間隔は10mとされているところ、区立公園では隣接樹木との間隔が2~3m程度しかないソメイヨシノがある。植栽間隔の狭い桜は競合被圧が発生しやすい。             |
|       | 顕著な日照不足        |   | 終日日陰の場合は全体が枯れる。午前中の生長活動をしている時間帯に必要な日射を確保することが重要。  |
| 土壌    | 踏圧（踏み固め）・土壌固結  |  | 根や土壌の日常的な踏み固めや、自然に進む土壌の劣化による固結のこと。踏圧・固結により根が衰退、地上部も根に応じて衰退し、枯下りから枯死に向かう。                          |
|       | 養分（保肥力）        |  | 土が養分を蓄える力と桜に供給される養分のこと。落葉の堆積と分解が未発達だと土壌が蓄えることのできる養分量が少ない。花付きが悪くなり健全度も徐々に低下する。                     |
|       | 根の広がり（植栽基盤サイズ） |  | 健全な根がはる事の出来る範囲のこと。アスファルト等の雨水を通さない舗装に挟まれた狭い植栽基盤では、養水分の不足による樹勢不良や夏季の枯れが起こりうる。                       |
|       | 水分不足           |  | アスファルト等の非透水性舗装に挟まれた狭い植栽帯や、踏圧に問題がありかつ他の樹木に覆われている桜では、雨水の地中への浸透が不十分である。夏季の渇水時に水分不足による障害が生じている可能性がある。 |

| 問題の種類   | 問題点                 | 状況  | 原因・影響  |
|---------|---------------------|---|--|
| 土壌      | 排水不良                | 該当なし  | 地中に水分が停滞すると酸素不足により根が衰退し（いわゆる根腐れ）、地上部は梢端の枯れが発生する。   |
| 剪定・管理   | 越境                  |    | 桜が成長するにつれ枝が公園外へ伸張り、隣接する民地や道路の建築限界へ越境する。しばしば強剪定の原因となる。  |
|         | 強剪定                 |    | 太い枝を剪定や切断すること。切断箇所から腐朽が発生し、次第に枯れの範囲が幹の方に拡大、樹勢の低下や樹形の崩壊が生じる。桜は剪定後の傷口の治りが遅く問題となりやすい。                   |
|         | 架空線接触               |   | 公園外周部の桜が敷地外に伸長し、道路上の電線、電話線、通信線等に接触すること。枝の成長をそのままにすると、枝が強く擦れて架空線を損傷する。                                |
|         | がんしゅ                |  | 枝の途中にこぶができ、発生部位から先の枝が枯れて落枝する病気。発生すると、数年をかけて徐々に枝枯れが広がり樹冠が小さくなる。樹形も乱れる。                                |
| 安全リスク管理 | 倒木等の危険性<br>(ベッコウタケ) |  | 根元～幹を腐らせ、樹木の支持力を奪い、倒木、根返りまたは折損事故を起こす。また倒木に至らなくても、樹勢が低下し枯下り等が発生すると、鑑賞性や緑化樹木としての機能が低下することがある。          |
| その他     | 敷地境界付近への植栽          |  | 敷地境界付近にソメイヨシノ等の高木となる樹木を植栽すると、縁石などの構造物と干渉し破壊することがある。また桜にとっても接触部分からの腐朽の発生や、敷地外へ伸張した太枝の日常的な切断を受けることになる。 |
|         | 病虫害                 | 該当なし  | クビアカツヤカミキリおよび顕著な病虫害は確認されなかった。  |





(3) 各立地の問題点


各立地の問題点は下表のとおり。

問題点まとめ







| 立地区分          | 生育上の問題がある割合 | 生育不良の割合 | 問題の傾向   | 状況  |
|---------------|-------------|---------|---|---|
| ①近隣隣接植栽帯      | 87%         | 30%     | 生育上の問題が顕著に多い。生育不良も比較的多い。特に隣接樹木と建物に囲まれるなどの極端な日照不足、競合被圧、踏圧・固結の影響が大きい。今後様々な問題により桜が衰退する可能性が高い。  |    |
| ②外周柵機能植栽帯     | 85%         | 33%     | 生育上の問題が多い。生育不良は顕著に多い。特に競合被圧、踏圧・固結、強剪定の影響が大きい。道路の歩行・走行空間へ伸びた太い枝を剪定した傷あとが多くある。今後様々な問題により桜が衰退する可能性が高い。   |    |
| ③間仕切り(目隠し)植栽帯 | 29%         | 0%      | 生育上の問題は少ない。中型の品種や近年植栽された若木が多いため生育不良の立地は確認されていない。一部に日照、土壌、安全リスク管理の問題がある。長期的には樹木の生長に伴い、土壌の問題が桜の生育に影響する可能性がある。   |   |
| ④高木点在広場       | 93%         | 27%     | 生育上の問題が顕著に多いが、桜の生育に重要な日照の問題が少ないため、生育不良は区立公園の平均的な発生率にとどまる。特に日常的な利用者の立入りによる踏圧・固結や養分の不足といった土壌の問題、根元を腐らすベッコウタケの影響が大きい。今後土壌の問題により桜が徐々に衰退する可能性が高い。一部ではベッコウタケにより急速に衰退する可能性がある。 |  |
| ⑤緑陰植栽広場       | -           | -       | 調査対象が1か所だけであったため判断できず。(芝生・野草広場と類似の環境と推測されるが、根元を保護する草がなく根元まで人が立ち入るため、長期的には土壌の問題が桜の生育に影響する可能性が高い。)  |  |

凡例

|   |                    |
|---|--------------------|
|  | 対象となる区立公園の平均よりも少ない |
|  | 平均並み               |
|  | 平均より多い             |
|  | 平均より著しく多い          |

 サンプル不足

| 対象区立公園全体    |             |
|-------------|-------------|
| 生育上の問題がある立地 | 生育不良の桜がある立地 |
| (78%)       | (28%)       |

| 立地区分     | 生育上の問題がある割合 | 生育不良の割合 | 問題の傾向   | 状況  |
|----------|-------------|---------|---|---|
| ⑥シンボル樹木  | 75%         | 75%     | 生育上の問題は区立公園の平均並み。生育不良は顕著に多い。古木であるため強剪定の痕が多く、幹や根元には木を腐らすバッコウタケやコフキタケなどのキノコが発生している。積極的に保全を行わないとこれらのキノコによる腐朽が拡大し、樹体支持力の低下、樹勢の悪化、樹形の乱れが起こる可能性が高い。 |    |
| ⑦自然樹林植栽帯 | 100%        | 50%     | 生育上の問題が顕著に多い。生育不良も顕著に多い。他の高木が近くにあるため、特に顕著な日照不足や競合被圧による樹勢・樹形の異常、枯下りが生じている。今後日照不良により生育不良が拡大する可能性が高い。  |    |
| ⑧修景目的植栽帯 | 78%         | 22%     | 生育上の問題は区立公園の平均並み。近年植栽された若木が多いため生育不良の立地は少ない。特に競合被圧や密度・間隔の狭さが問題である。樹木の生長に伴い日照環境が桜の生育に影響する可能性が高い。  |   |
| ⑨建物周辺植栽帯 | -           | -       | 調査対象が1か所だけであったため判断できず。(すずめのお宿緑地公園では建物による直接的な影響は見られなかった。他の高木とともに混植されているため競合被圧がおきていることが問題。)   |  |
| ⑩日本庭園    | -           | -       | 調査対象が少ないため判断できず。(駒場公園では土壌の踏圧・固結により太根が顕著に地表に露出しており土壌の養分も少ないことが問題である。)  |  |
| ⑫芝生・野草広場 | 29%         | 0%      | 生育上の問題は少ない。根元が芝生で保護されていることもあり生育不良の立地は確認されなかった。一部で土壌、剪定・管理、安全风险管理の問題が確認された。長期的には土壌の問題が桜の生育に影響する可能性がある。   |  |

### 3. 将来像

#### (1) 区立公園サクラ再生実行計画の基本方針

##### ア) 目標

###### ●桜のある景観を将来に引き継ぐ

『春の高揚感を感じられる、健全で見ごたえのある桜を将来に引き継ぐ』をコンセプトとする。街から公園を見たときの第一印象となる外周部の桜の景観を再生する。古くから愛されるシンボル樹木については、桜の健全性、安全性や緑化機能を適切に評価・検討したうえで、現在の景観を保全する。比較的生育環境のよい芝生・野草広場では桜を補植により桜のある景観を充実させる。これら保全・再生・充実により桜のある景観を将来に引き継ぐ。

##### イ) 将来像実現の前提条件

###### ●安全な公園空間の確保

区立公園の桜は、春の景観を彩り癒しを提供する。一方で、一部の桜では幹や根株の腐朽やベッコウタケ等による空洞化がおき、倒木または折損による人身・物損事故等の発生リスクが生じている。今後も快適・安心・安全な公園利用が行えるよう、桜の健全度を把握し安全確保に必要な措置を行い、桜の健全で美しい生育と安全な公園の両立を図る。

###### ●調和ある計画

桜の保全・再生・充実は、散策や運動などの様々な公園利用と両立し、調和を図りながら実施するものとする。

###### ●快適性の確保

太い根が地表に露出し利用者がつまづく原因（根上り）となっているため、生育環境の改善を通じ根上りの予防に努める。維持管理の改善により枯れ枝の発生を減らし美しい桜を実現する。健全な枝葉を増やし緑陰機能や民有地との緩衝機能を望ましいレベルに維持する。

###### ●桜に適した環境への改善・管理の実行

桜の生育環境には適地と不適地がある。適地の桜は良好に成長し長期にわたって健全な状態を維持する。不適地の桜は、生育不良、腐朽菌への感染、樹形の乱れや花付きの減少などが起こる。桜が持つ、陽樹、中～浅根性、腐朽が生じやすいという性質を踏まえ、日照、土壌、剪定管理などの問題を桜に適したものに改善する。生育環境や管理手法の見直しは個々の桜の状況に応じて行うが、本計画で明らかにした立地ごとの傾向を踏まえ対策・措置を行う。



## (2) 将来像

立地ごとに目標となる将来像を定めた。現状と将来像を見比べ必要な措置を検討し、「再生」、「保全」、「充実」のタイプに分類した。

### ■ 保全タイプ

剪定等の標準的な維持管理に加え、適宜、土壌のエアレーション等の生育環境改善を行い、今ある桜が健全に生育できる環境を整備・維持する。

### ■ 再生タイプ

今ある桜を保全しつつ、健全化困難な桜の段階的な世代交代や、適正間隔での植替えにより桜景観の再生を目指す。

### ■ 充実タイプ

今ある桜を保全しつつ、日照の確保や隣地への越境に注意しながら補植を行い、見ごたえのある桜景観への充実を図る。

## 立地別の将来像一覧

| 立地区分          | タイプ | 将来像                                  |
|---------------|-----|--------------------------------------|
| ①近隣隣接植栽帯      | ■再生 | 他の樹木と共存するコンパクトな樹形の桜を目指す              |
| ②外周柵機能植栽帯     | ■再生 | コンパクトな樹形に満開の桜を目指す                    |
| ③間仕切り(目隠し)植栽帯 | ■保全 | 若木の健全な成育を見守る                         |
| ④高木点在広場       | ■保全 | 根が地表へ露出することを予防し、桜に優しく人も歩きやすい環境に整える   |
| ⑤緑陰植栽広場       | ■保全 | 根をいたわり健全な成育を維持する                     |
| ⑥シンボル樹木       | ■保全 | 手厚い手当てにより、シンボルに相応しい見ごたえのある桜とする       |
| ⑦自然樹林植栽帯      | ■再生 | 日照を改善し樹林地に映える桜を目指す                   |
| ⑧修景目的植栽帯      | ■保全 | 日照を確保し園内を彩る壮年期の桜に育てる                 |
| ⑨建物周辺植栽帯      | ■保全 | 日照を改善し今ある桜と他の樹木との共存を目指す              |
| ⑩日本庭園         | ■保全 | 土壌の改良により、庭園に相応しい見ごたえのある桜を目指す         |
| ⑫芝生・野草広場      | ■充実 | 広い空間と芝生で根が守られていることを活かしたゆとりある樹形の桜を目指す |



## 再 ①近隣隣接植栽帯

将来像：他の樹木と共存するコンパクトな樹形の桜を目指す

公園と隣接民有地を遮蔽するため豊かな枝葉が望まれる。問題は多岐にわたるが、競合樹木の剪定による日照の確保と民有地への枝葉の越境対策が必須である。今後様々な問題により桜が衰退する可能性が高いため改善措置の優先順位は高い。

<管理・環境改善の手法>

- 日照**・隣り合う樹木の枝葉を剪定し、日当たりを改善・維持する
  - ・近くに衰退した樹木があれば間引く
- 管理**・隣接民有地への越境を見越し、計画的・周期的にこまめに剪定する
  - ・枝は公園内に伸ばす
  - ・太枝の剪定は適切な位置で行い傷を癒合剤で保護する
- 土壌**・エアレーションなどの土壌改良を行い土壌の通気性を高め根の再生を促進する
  - ・肥料を与え、新たな枝葉の萌芽・再生を促進する
- 植替**・植替えの際には、適切な日照と樹木間隔を確保する
  - ・境界から距離をとり公園の内側に寄せて植える
  - ・中型～小型の品種の桜に植替える。極端な日照不足の場所は桜以外に植替える

## 再 ②外周柵機能植栽帯

将来像：コンパクトな樹形に満開の桜を目指す

外周部に位置し公園の第一印象となる立地である。良好な桜景観を再生する必要がある。問題は多岐にわたるが、競合被圧対策と強剪定の原因になる越境枝対策が必須である。今後様々な問題により桜が衰退する可能性が高いため改善措置の優先順位は高い。

<管理・環境改善の手法>

- 日照**・隣り合う樹木の枝葉を剪定し、日当たりを改善・維持する
  - ・近くに衰退した樹木があれば間引く
- 管理**・道路への越境を見越し、計画的・周期的にこまめに剪定する
  - ・枝は公園内に伸ばす
  - ・太枝の剪定は適切な位置で行い傷を癒合剤で保護する
- 土壌**・エアレーションなどの土壌改良を行い土壌の通気性を高め根の再生を促進する
  - ・肥料を与え、新たな枝葉の萌芽・再生を促進する
- 植替**・植替えの際には、適切な日照と樹木間隔を確保する
  - ・境界から距離をとり公園の内側に寄せて植える
  - ・道路への越境防止や、根が広がる範囲の狭さを考慮し植替えには中～小型品種を採用する

将来像に近い桜



現状

目黒区民センター公園  
近隣隣接植栽帯



現状

中町せせらぎ緑地公園  
外周柵機能植栽帯

**保** ③間仕切り(目隠し) 植栽帯

将来像：若木の健全な成育を見守る

園内の各エリアの間にあり目立つ桜。中型の品種や近年植栽された若木が多く生育は比較的良い。今ある若木に対しては標準的な年間管理を実施し健全な生育を見守る。当面は健全な生育が期待できる。

<管理・環境改善の手法>

- 植替**・植替えの際には、適切な日照と樹木間隔を確保する
- ・植栽基盤のサイズに見合った中～小型品種を採用する
- ・植替えの際は土壌を改良して植え付ける

**保** ④高木点在広場

将来像：根が地表へ露出することを予防し、桜に優しく人も歩きやすい環境を整える

広場に緑陰を提供するため豊かな枝葉が求められる。土壌の問題により桜が徐々に衰退する可能性が高いため計画的な改善措置を要する。

<管理・環境改善の手法>

- 安全**・倒木につながるベッコウタケを監視し、桜の状態を把握する
- 土壌**・エアレーションなどの土壌改良を行い土壌の通気性を高め根の再生を促進する
- ・肥料を与え、新たな枝葉の萌芽・再生を促進する
- ・公園利用との両立を図りつつ根元を保護する
- 植替**・植替えの際には適切な日照と樹木間隔を確保する

**保** ⑤緑陰植栽広場

将来像：根をいたわり健全な成育を維持する

園路やベンチなどに緑陰を提供するため豊かな枝葉が求められる。現在の生育は良好だが、長期的には土壌の問題が桜の生育に徐々に影響する可能性が高い。梢端枯れなど土壌の異常の徴候が顕れた場合は、エアレーションにより土壌をほぐし根の再生を図る。

<管理・環境改善の手法>

- 土壌**・適宜エアレーションなどの土壌改良を行い土壌の通気性を高め根の再生を促進する

将来像に近い桜



現状

菅刈公園  
間仕切り(目隠し)植栽帯



現状

伊勢脇公園  
高木点在広場



現状

西郷山公園  
緑陰植栽広場

## 保 ⑥シンボル樹木

将来像：手厚い手当てにより、シンボルに相応しい見ごたえのある桜とする

公園のシンボルとして存在感のある樹形に満開の桜が求められる。古木が多くベッコウタケやコフキタケ等の腐朽菌により腐朽が拡大し、樹体支持力の低下、樹勢の悪化、樹形の乱れが起こる可能性が高い。改善措置の優先順位は最も高い。今ある桜をシンボルに相応しい見ごたえのある桜として保全する。

<管理・環境改善の手法>

- 安全**・倒木につながるベッコウタケやコフキタケを監視し、桜の状態を把握する
  - 強度不足の桜は支柱やケーブルで倒木を防止する
- 土壌**・エアレーションなどの土壌改良を行い土壌の通気性を高め根の再生を促進する
  - 肥料を与え、新たな枝葉の萌芽・再生を促進する
- 管理**・枯枝や腐朽枝はこまめに剪定する
  - 太枝の剪定は適切な位置で行い傷を癒合剤で保護する

## 再 ⑦自然樹林植栽帯

将来像：日照を改善し樹林地に映える桜を目指す

他の高木と混ざって咲く桜。他の高木に囲まれるため日照不良により生育不良が拡大する可能性が高い。改善措置の優先順位は高い。樹林地外への植替え、適正間隔での植替え、競合樹木の剪定、東～南方向の日照の確保により他の樹木との共存を目指す。

<管理・環境改善の手法>

- 日照**・隣り合う樹木の枝葉を剪定し、日当たりを改善・維持する
  - 近くに衰退した樹木があれば間引く
  - 比較的健全で若い桜は適地へ移植する
- 管理**・伸び過ぎた桜の枝は太る前に剪定する
  - 太枝の剪定は適切な位置で行い、傷を癒合剤で保護する
- 植替**・植替えの際には適切な日照と樹木間隔を確保する
  - 他の立地や樹林の外周への植替えを優先的に検討する

### 将来像に近い桜



南一丁目緑地公園  
シンボル樹木



大坂緑地  
自然樹林植栽帯

**保** ⑧修景目的植栽帯

将来像：日照を確保し園内を彩る壮年期の桜に育てる

園内随所で様々な形態がある。近年植栽された若木が多く生育は比較的良いが、桜同士が高密度で植栽されており、樹木の生長に伴い日照環境が桜の生育に影響する可能性が高い。当面は健全な生育が期待できる。

<管理・環境改善の手法>

**日照**・隣り合う樹木の枝葉を剪定し、日当たりを改善・維持する

**植替**・過密な桜は適地へ移植する

**保** ⑨建物周辺植栽帯

将来像：日照を改善し今ある桜と他の樹木との共存を目指す

他の高木と混ざって咲く桜。他の高木に囲まれるため日照が不足し生育不良の拡大が懸念される。著しい樹勢不良は生じていないため、まずは隣接樹木の剪定により日照を確保することで他の樹木との共存を目指す。

<管理・環境改善の手法>

**日照**・隣り合う樹木の枝葉を剪定し、日当たりを改善・維持する

・近くに衰退した樹木があれば間引く

**保** ⑩日本庭園

将来像：土壌の改良により、庭園に相応しい見ごたえのある桜を目指す

日本庭園の中核となる桜。土壌の踏圧・固結により太根が顕著に地表に露出しており、土壌の養分も少ない。エアレーションにより土壌をほぐし根の再生を図ることで、庭園に相応しい見ごたえのある桜を目指す。

<管理・環境改善の手法>

**土壌**・エアレーションなどの土壌改良を行い土壌の通気性を高め根の再生を促進する

・肥料を与え、新たな枝葉の萌芽・再生を促進する

将来像に近い桜



現状

中目黒公園  
修景目的植栽帯



現状

すずめのお宿緑地公園  
建物周辺植栽帯



現状(秋)

菅刈公園  
日本庭園

**充** ⑫芝生・野草広場

将来像:広い空間と芝生で根が守られていることを活かしたゆとりある樹形の桜を目指す  
広々とした空間に咲く桜。日照条件が良く根元が芝生で守られているため、桜にとって生育上の問題点は少ない。区立公園で最も環境の良い立地である。一部で土壌の問題があり、長期的には桜の生育に徐々に影響する可能性がある。梢端枯れなど土壌の異常の徴候が顕れた場合は、エアレーション等の土壌改良により土壌をほぐし根の再生を図る。空間が広いゆとりある樹形に育てることができる。新たに桜を補植する余地もある。

<管理・環境改善の手法>

**土壌**・適宜エアレーションなどの土壌改良を行い土壌の通気性を高め根の再生を促進する



将来イメージ

芝生・野草広場の壮観な桜と外周部のコンパクトな桜がある公園

将来像に近い桜



現状

中目黒公園  
芝生・野草広場



現状

駒場公園  
芝生・野草広場

### (3) 将来像を実現する技術と方法

#### 1) 植替え品種

桜の健全な成育を長期間維持するには、植栽地のサイズにあった品種選びが第一である。狭い場所では中型や小型の品種が適する。品種の選定にあたっては個々の場所ごとに、空間サイズ、地域の要望、これまで植栽されていた品種の雰囲気、管理頻度等を考慮する。

#### 区立公園に適した中型～小型の品種例



#### 2) 植栽間隔

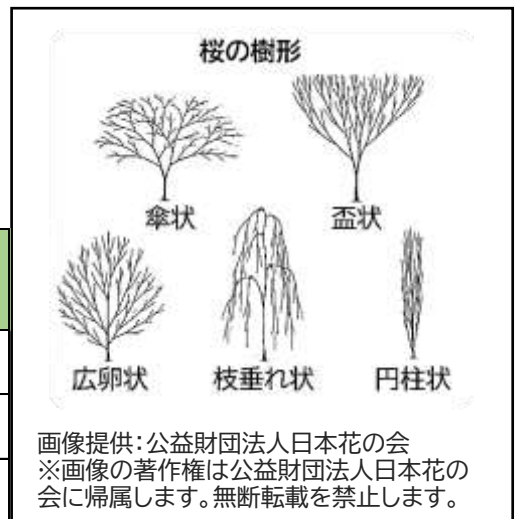
桜と隣接中高木の植栽間隔は、枝葉の競合被圧による日照不足や、病原菌の侵入口となる枝の擦れ傷を防ぐことができる間隔が望ましい。

具体的には、桜同士が隣接する場合はより高くなる桜の目標樹高を植栽間隔の目安とする。各種桜の目標樹高と樹形ごとの植栽間隔の目安を下表に示す。

植栽間隔の目安を満たせない場合は、東～南の植栽間隔を優先的に確保し、北～西は若干狭い間隔を許容して剪定で調整する。

植栽間隔の目安

| 目標樹高 \ 樹形 | 傘状 広卵状<br>盃状 枝垂れ状     | 円柱状                |
|-----------|-----------------------|--------------------|
| 8m以上      | 8m以上<br>(ソメイヨシノ)      | —                  |
| 3～8m      | 6～8m以上<br>(カワズ オモイガワ) | 3m～4m以上<br>(アマノガワ) |
| 3m以下      | 3m以上<br>(オカメ タカサゴ)    | —                  |



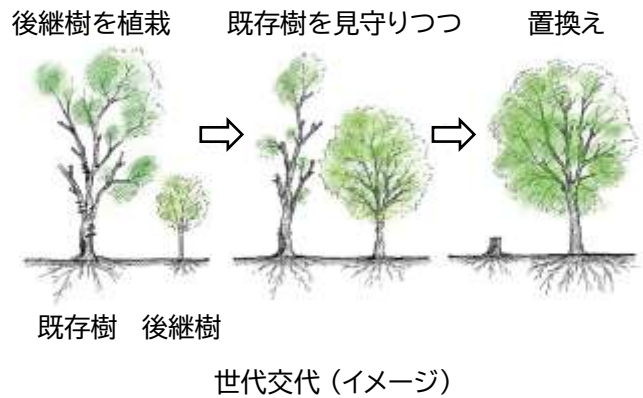
#### 3) 植替え方法 - 世代交代 -

##### ア) 標準的な植替え方法

根株は数年間放置して分解が進み掘り取りやすくなった後に植替える。ベッコウタケ、ナラタケ類の危険なキノコに感染していた場所は、後継樹が土中の病原菌に感染するのを防止するため、根株と一緒に根も掘り取り、深さ 1m 程度まで耕うんすることで滅菌を行う。

## イ) 世代交代

桜の健康状態は様々で、手当てにより健全になる桜、枯下りや空洞化が進み健全化が困難な桜、既に枯死に近い不健全な桜がある。不健全な桜は安全上も問題がある場合が多いので撤去植替えが原則である。一方、健全化は困難だが支柱等で安全上のリスクがコントロール可能な桜は、伐採の前に後継の桜を植え育て、ある時点で完全に置き換える世代交代を行う。



この方法は今ある桜の命を大切にできる点、開花時のボリュームをある程度維持できる利点がある。課題は計画に沿った管理を既存樹と後継樹の双方に対し長期間継続する必要があり手間とコストがかかることである。また、植替え候補の桜がベッコウタケやコフキタケに感染している場合はこの方法は適さない。

## ウ) 樹名板の設置

桜を新植した際には樹名板を設置する。樹名板が老朽化した際には適宜更新する。

## 4) 根の保護と再生

### ア) 根の伸張範囲

桜の根は枝葉よりも遠くに伸びる。重要な根が広がる範囲は、幹の直径の18倍に及ぶとする説がある。一方で、公園では限られた空間を人と桜がシェアしている。人の立ち入りにより傷んだ根をケアして根の保護と人の利用を両立する必要がある。根元近くへの立ち入りを抑制すると同時に、枝葉の下へ利用者が立ち入らざるを得ない範囲はエアレーション等の土壌改良により土と根を再生する。

### イ) 立ち入りの抑制

根元近くへの立ち入りを抑制する。草花、低木、可動式または常設の柵で根元を囲む方法がある。柵は確実だが公園の景観に配慮する工夫が求められる。低木は課題が少ないが剪定など定期的な手入れが必要となる。区立公園ではアガパンサス、ツワブキ、キキョウ、リュウノヒゲなどの多年草で根元を囲む方法が適する。立ち入りの抑制効果は強くないが、草花にミミズ等が住み着き土壌が健全に保たれる点、花が咲き景観が良くなる点、比較的ローメンテナンスで維持可能な点が適する。立地の状況に応じた使い分けが必要となる。根元の保護と合わせて、公園利用者に桜の保護の方法や意義を周知・啓発する。



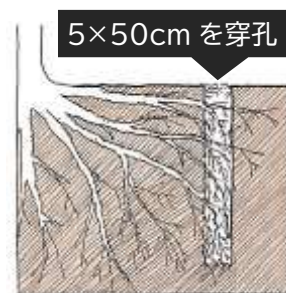
立ち入りの抑制による根の保護



#### ウ) エアレーション

良質な土は空気の通り道となる隙間を多く含む。人が立ち入ると隙間が踏み潰され、空気の通り道が無くなる（踏圧）。植物の根は養水分以上に酸素を必要としており、酸欠になると衰退する。地上部も枝葉の先から枯れる。

エアレーションは高圧空気を用い、土壌に直径5cm 深さ 50cm 程度の孔（あな）をあける工法である。孔が空気の通りを改善し根が再生される。同時に肥料や土壌改良資材を充填することもできる。掘削で根を傷めない点、低木が込み入った場所でも施工できる点、比較的小さな労力で実施できる点が利点である。一方、広い面積の改良は不得意で、状況に応じ他の方法と使い分けが必要である。



エアレーションによる根の再生

## 4. 桜の維持管理

### (1) 問題点改善のための措置・対策

桜の生育上の問題点と改善のための措置・対策を示す。各立地の問題点と個々の桜の状況に応じ適切な措置や対策をとる。

#### ア) 日照不足

##### ●競合被圧

日照を確保する。特に東～南からの日当たりが確保できるようにする。措置は競合する枝葉の剪定、競合樹木の間引き、目標サイズより大きい桜の縮小剪定、根株が確保できる若い桜は適地へ移植、小型の桜への植替えである。

##### ●密度・植栽間隔

樹木間隔が適正になるよう次の措置をとる。健全な既存樹木の移植、不健全または健全化困難な桜の伐採、空間サイズに適した品種の桜に植替える。いずれも実施困難な場合は隣接樹木同士の枝葉を剪定する。(P. 14「植栽間隔の目安」を参照)

#### イ) 土壌

##### ●踏圧（踏み固め）・土壌固結

まず土壌の通気性を高める必要がある。方法には根元の周りの土壌を圧縮空気でするエアレーション法などがある。シンボルツリー等の重要度が高い樹木に対しては、根元周りの土壌をエアスコップで除去し改良土壌と置き換える方法がより確実である。

(P. 16「エアレーション」, P. 20「土壌改良」を参照)

更に、桜の根元の周りに多年草等の草本植物や地被を植え、再固結の緩和・防止を行う。根の保護範囲は公園利用者の動線を踏まえ個別に決定する。(P. 15「立ち入りの抑制」を参照)

●養分不足

土壌の保肥力改善と養分供給のために有機質肥料を主体とした壺肥えとする。(P. 20「施肥」を参照)

●根の広がり (植栽基盤サイズ)

養水分を吸収する細根の分布域を広げるために植栽帯を拡幅する。これが不可能な場合は、土壌改良(エアレーション)、灌水・施肥等により細根の発達を促し樹勢回復を図る。根詰まりを起こした植木鉢状の植樹では、太い根を避けながら土壌を切り出し新たな土壌を充填することで、根系のリフレッシュを図る。



根詰まりへの措置

●水分不足

夏季の渇水時には灌水を行う。根本的な対策としては植栽帯の拡幅が望ましい。土壌のエアレーションやマルチングも土壌の保水能力を向上するので有効である。(P. 21「灌水」を参照)

●排水不良

穿孔により地中の不透水層を貫き、黒曜石パーライトや砂を混合して充填する。

ウ) 剪定・管理

●越境

越境枝はいずれ発生するものと予定し、計画的・周期的にこまめに剪定を行う。

●強剪定 (越境枝・架空線接触枝対策、枯下がり枝の切断)

越境枝・架空線接触枝等の支障枝はいずれ発生するものと予定し、計画的・周期的にこまめに剪定を行い強剪定の必要が生じないようにする。やむを得ず太枝を剪定・切断する際は適切な位置での切除に努め、切断面を癒合剤で保護する。枯下りの原因である被圧競合または踏圧に対処することも有効である。(P. 19「剪定」を参照)

●架空線接触

架空線に接触する枝を剪定する。接触が軽微な場合は、架空線に保護管を設置する措置もある。

●がんしゅ

がんしゅの発生枝をこまめに切除し感染の拡大を防止する。現時点で利用可能な薬剤はない。健全な枝葉に隠れた罹患枝による落枝事故に注意する。

エ) 安全リスク管理

●倒木等の危険性（ベッコウタケ・コフキタケ・ナラタケ類・腐朽・空洞）

感染木に対しては、倒木や倒伏を防止するために定期的な点検・樹木診断を行う。点検・診断の結果に応じて、支柱やケーブルリングにより支持力を補う。リスクが許容範囲に収まっている間は、施肥・灌水により腐朽に対抗するように樹勢を改善する。リスクが許容範囲を超えた場合は伐採し、利用者および第三者の安全確保ならびに施設等の損傷を防止する。

予防は腐朽菌の侵入口となる傷を作らない、木部を露出しないことである。具体的には、剪定時の癒合剤塗布、雑草や芝刈の際の根元の傷付け防止、露出根の踏みつけ防止がある。ベッコウタケやナラタケ類の被害地で植替える際は土壤滅菌を徹底する（P. 14「標準的な植替え方法」を参照）



オ) その他

●樹勢回復

樹勢とは、花付きや葉色または枝葉の密度といった桜の全体的な元気を指す。区立公園の桜の樹勢低下は、主に日照、土壤、剪定・管理が原因である。樹勢回復はこれらの問題点を改善することにより行う。

(2) 標準の年間管理

1) 年間管理暦

桜は四季に応じた葉、根、花の成長サイクルを持っており、これに対応した管理を行う。以下に示した年間管理暦は、根の活着後、育成～老齢段階の桜の標準的な管理暦である。これを基に桜の成長段階や個々の状態に応じた管理を行う。

年間管理暦(ソメイヨシノ基準)

| 作業    | 3月         | 4月 | 5月 | 6月 | 7月   | 8月 | 9月 | 10月 | 11月  | 12月  | 1月 | 2月 |  |
|-------|------------|----|----|----|------|----|----|-----|------|------|----|----|--|
| 生育    | 開花         |    |    |    | 花芽分化 |    |    |     | 落葉   | 根の休眠 |    |    |  |
| 点検・診断 | 樹勢判定       |    |    |    |      |    |    |     |      |      |    |    |  |
| 剪定    |            |    |    |    | 夏季剪定 |    |    |     | 冬季剪定 |      |    |    |  |
| 施肥    | お礼肥        |    |    |    |      |    |    |     |      | 寒肥   |    |    |  |
| 土壤改良  | (必要に応じて随時) |    |    |    |      |    |    |     |      |      |    |    |  |
| 灌水    |            |    |    |    |      |    |    |     |      |      |    |    |  |
| 病害虫防除 | 虫害発生       |    |    |    |      |    |    |     |      |      |    |    |  |
| 支柱    |            |    |    |    |      |    |    |     |      |      |    |    |  |
| 除草    |            |    |    |    |      |    |    |     |      |      |    |    |  |
| 植え付け  |            |    |    |    |      |    |    |     |      |      |    |    |  |

## 2) 年間管理の作業内容

### ア) 点検・診断

#### ● 日常点検

目視による巡回により桜の生育状況、障害の発生、生育環境を確認する。異常を認めただけの場合は必要な措置をとる。落枝や倒木について危険な状態を見つけた場合は早急に対処する。危険の度合いや措置について詳細な検討が必要な場合は、立入禁止等の仮措置を行ったうえで樹木医による診断を行い、その後の措置を決定する。

#### ● 専門診断（樹木診断）

樹木医による桜の樹勢・樹形・障害についての診断のこと。目視を中心に簡単な器具を用いておこなう外観診断と、樹木の腐朽度合いを専用の機器で測る機器診断がある。植栽後に一定期間が経過した桜は定期的に樹木診断を行う。日常点検で必要とされた桜も対象とする。樹木診断と同時に生育環境についても確認する。診断の結果に対応した措置を採る。



根株の機器診断

#### 安全上注意すべき項目

以下の症状は安全管理上のリスクとなるので注意して確認する。

落枝：枯枝、掛かり枝、がんしゅ

幹折：貫通した亀裂、顕著な入皮

倒木：ベッコウタケ、コフキタケ、ナラタケ類、開口空洞、顕著な腐朽、不自然な傾斜、根元の揺れ

#### ● 植栽基盤診断

土壌硬度や透水性などの診断のこと。必要に応じて実施し、診断の結果は土壌の管理に反映させる。

### イ) 剪定

桜は傷や剪定あとから腐りやすい。区立公園でも剪定あとかからの腐朽が幹にまで達しているものがあつた。将来の支障枝や忌み枝は、径が細く傷が治る可能性が高いうちに、計画的・予防的に剪定を行う。

#### < 冬季剪定 >

基本の剪定である。直径 5cm 以上の枝の剪定や太枝の枝おろしは冬季に行う。

#### < 夏季剪定 >

安全上やむを得ない場合や、支障枝、過繁茂枝の切除など最小限の剪定にとどめる。直径 5cm 以上の枝の剪定や太枝の枝おろしはなるべく避ける。



適切な剪定あと

### <正しい剪定>

- ・切断面を傷めないように鋭利な刃物で切断する
- ・枝が分岐する真上で切る「切返し剪定」が原則。細枝を除き、枝の途中で切断する「切り詰め剪定」はなるべく避ける。
- ・太枝を切除する際は、分枝基部の膨らみ（ブランチカラー）やバークリッジを傷つけないように注意する。
- ・直径 5cm 以上の枝を剪定・切除した場合は、腐朽防止のため癒合剤を確実に切断面に塗布する。大きな傷は治らないことも多いので、年単位で定期的な塗り直しを行う。

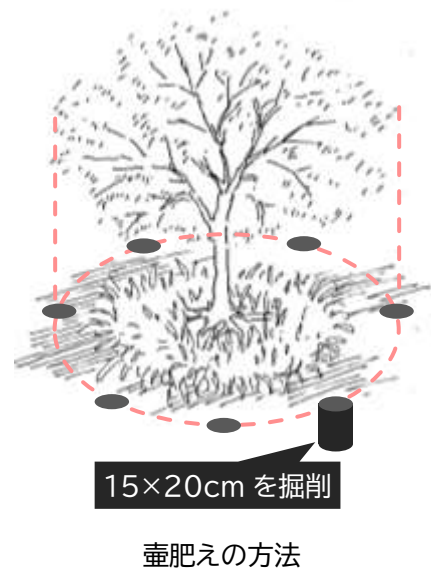


### ウ) 施肥

冬季にバーク堆肥等の有機質肥料を主体とした肥料を壺肥えにして実施する。この方法は養分供給に加え踏圧改善や生物性の改善も見込める。花後のお礼肥や樹勢回復を目的としたスポット的な施肥であれば、化成肥料をバラまくのでもよい。エアレーション等の土壌改善と併せて行う事でより高い効果が期待できる。

#### <壺肥え>

樹冠の真下を目安に、ダブルスコップで直径 15cm・深さ 20cm 前後の穴を掘り、肥料を充填し覆土する方法。太根を傷つける心配がないのであれば、幹から 1.5m 離れた場所から樹冠の真下の間で実施してよい。



### エ) 土壌改良

区立公園の土壌改良は、踏圧改善、土壌の養分不足の改善を目的に、エアレーションや土壌改良資材の投入により実施する。可能であれば、落葉やバーク堆肥等によるマルチングが望ましい。

#### <施工方法>

- ・圧縮空気を用いたエアレーション  
根元が入り組んだ場所でも施工でき、根を傷つけにくい比較的小労力の方法。  
区立公園の桜はこの方法が適しているものが多い。(P.16「エアレーション」を参照)
- ・割り竹挿入縦穴式土壌改良法  
ダブルスコップで掘削した孔に、割って節を除去した竹を通気管として挿入する方法。
- ・表土の耕うん  
エアスコップにより表土をはぎ取り、改良土と置き換える方法。

## オ) 灌水

夏季に降雨がない日が続き、葉の端が丸まったり異常落葉がおきた場合は、灌水を行う。夏季は早朝か夕方に実施し日中は灌水を避ける。

## カ) 病虫害防除

病虫害防除は原因菌や虫のライフサイクルに注意し効果的に対処する。桜の主な病虫害について以下に記載する。安全上のリスク要因となるベッコウタケ等の腐朽病害はP.18の「安全リスク管理」を参照のこと。

### <病害>

桜が罹患する代表的な病害は、がんしゅ（サクラがんしゅ病、サクラこぶ病）、てんぐ巣病、幼果菌核病、こうやく病、根頭癌腫病である。特に、落枝や樹冠縮小をもたらす「がんしゅ」や、放置すると枯死に至る「てんぐ巣病」に注意する。

### <虫害>

桜を害する代表的な害虫は、オビカレハ、アメリカシロヒトリ、モンクロシャチホコ、アブラムシ類、カイガラムシである。特に、樹勢を衰退させる「コスカシバ」に注意する。目黒区内では確認されていないが外来種のクビアカツヤカミキリに警戒する。

#### ・クビアカツヤカミキリ

経済的・環境的影響が甚大であるとして特定外来生物に指定されている害虫。晩夏に根元にたまった大量のフラス（木くず）が被害木の分かりやすい特徴である。クビアカツヤカミキリは目黒区内で未だ確認されておらず侵入を警戒する必要がある。発見した場合の防除方法を予め検討しておくことが望ましい。



## キ) 支柱等

支柱は、植栽した若木が根付くまでの仮の支え、枝垂れ性や樹形の乱れがちな品種の枝の誘引、樹体支持力の補強を目的に適宜に設置する。樹体支持力の補強を目的とする場合は、支持力の十分な三脚鳥居支柱、井桁支柱、櫓型支柱を主に用いる。食い込みにより生じた傷は折損や病原菌等の侵入口となるので定期的に結束の状態を確認する。

## ク) 除草

養生段階の苗木は、土壌の養水分や日照を雑草に奪われないように周囲の除草を行う。刈払い機の使用時や草刈り時に桜の根元を傷つける事故が起きているので、根元の間近は手作業での除草が望ましい。

## ケ) 植え付け（植替え・補植）

11月頃に落葉してから3月中旬までが適期である。ただし、12月下旬から2月中旬の厳寒期は避ける。

### (3) 住民参加

近年、公園の桜の維持管理を自治体と住民が協働で行う事例がある。地域の方が日常的に桜を見守り保全していくボランティア活動は、桜守（さくらもり）活動と呼ばれ、区立公園の「桜のある景観」を維持していくうえでも大きな力になる。例えば、区立公園では以下の活動が考えられる。

#### <桜守活動の例>

桜の継続的な観察…開花状況の記録や枯枝、病気等の異常の発見を行う

施肥や水やり……………季節ごとに肥料を施す、土壌の乾燥を防ぐ

花芽観察……………花芽の数を観察し桜の健康状態を把握する

清掃活動……………開花時や落葉時の清掃を行う、落ち葉堆肥を作る



花芽観察